

在宅生活へ向けた退院・退所前指導の内容は、関わるチーム力や理学療法士個人の力量や感性、人格などによっても左右される。単に運動機能だけにとらわれない、家庭生活の援助、あるいは QOL の維持・向上を目的とした退院・退所前指導とそのフォローアップのあり方について、知識と知恵を提供していただいた。

■患者を含めた「早期の家族ケア」が重要(宇佐見準子論文)

病院と在宅ケアの活動を通して、患者や家族が抱えている問題を整理していただいた上で、退院前指導およびそのフォローアップとして配慮すべき事項と対策について具体的に提示していただいた。病院内の患者だけでなく、患者を含めた家族を対象に実際の家庭生活の生活場面で指導することを PT に求めている。

■患者の「今」の状況と変化に随時対応し、「する ADL」を可能性にする環境づくりが転倒防止に役立つ(高橋 栄, 他論文)

ADL や QOL の低下に直結しやすい転倒事故に焦点を絞って、発生しやすい環境、退院前に行うべき転倒予防の具体的な指導や工夫などについて解説していただいた。入院中の徹底した評価、対策があつて初めて具体的で効果的な退院前指導につながることを認識させられる。

■依然として歩行ができるまでの入院継続を希望する患者や家族をいかに在宅生活に導くか(澤田隆憲, 他論文)

患者や家族が歩行に執着して車椅子での退院を拒否している場合、どのような対策が好ましいか、事例を通して解説していただいた。患者・家族への理解と真摯な態度、情報の提供、退院後の生活に活用される実際的な頻回の訓練、そしてフォローアップと、書けば簡単、しかし実践はなかなか大変そうである。

■パーキンソン病患者は時間帯によってどのレベルの介助が必要か見極めること(小林量作, 他論文)

慢性進行性で、自立度の変動や合併症の問題を抱えるパーキンソン病の理学療法士のあり方について、退院前指導とフォローアップの視点から論じていただいた。疾病のもつ特殊性に配慮しながら、細かい心遣いで患者・家族を支援、指導し、理学療法士のあるべき姿を模索しておられる様子が伺える。

■RA 患者の創意工夫に理解を示しながら、原則に基づいた複数の方法を提示すること(松葉貴司, 他論文)

慢性関節リウマチ患者の生活障害へのアプローチはこのように細かく、具体的でなければならない。疾病や環境に関する知識と生活指導の技術、つまり知恵が惜しげもなく提示され、圧巻である。